

## 北陸三県連携によるプロモーション

本県では今年度、シンガポールにおいて、富山県、福井県の両県と連携し、北陸三県での食品や日本酒等の販売プロモーションを行い、海外販路のさらなる拡大を図ることとしております。その一環として、11月15日から17日までの3日間、シンガポール最大級の日本酒イベント「酒まつり」に北陸ブースを出展し、石川県からは7社33商品をPRしました。

初日は、バイヤーなどのBtoB向けのイベントが開催され、来場した約500名のバイヤーに対し、北陸の酒を試飲いただきながら、商品説明・商談を実施しました。2日目と3日目には、一般客を対象にしたBtoCのイベントに約2500人の方が来場し、北陸のお酒の中から各々の嗜好に合った商品を見つけていただきました。バイヤーからは、「北陸三県でも豊富なラインナップがあり気に入った商品がいくつもあったので、ぜひ取り扱いを検討したい」といった声があり、北陸のお酒に高い関心を持っていただきました。一般客からは、「被災した能登のお酒をシンガポールで飲めるとは思わなかったのもとても嬉しい」といった声もあり、能登の復興の後押しにもなったのではないかと思います。また、ご購入いただいたお客様には、県のアンテナショップを紹介するとともに、割引券の配布も行うなど、リピーターとなっていただけのような働きかけも積極的に行いました。

本イベントは、石川県としては3回目の出展となりますが、今回も過去2回と同様、大吟醸などの比較的飲みやすいお酒や、梅酒が非常に人気でした。一方、「なにか珍しいお酒はないか?」といった声も少し増えてきた印象で、白ワインのような味わいのお酒、発泡タイプのお酒、加賀棒茶を使ったお酒などを購入されるお客様も多くいらっしゃいました。それだけシンガポールに日本酒が浸透し、オーソドックスな日本酒に慣れてきたお客様が増えたことで、少しずつニーズの変化が生まれてきているのではないかと感じました。

先日より報道されているとおり、日本酒や焼酎、泡盛などの「伝統的酒造り」が無形文化遺産に登録される見込みとなりました。今後、こうした追い風をうけ、シンガポールでの日本酒の人気はさらに広がっていくと思いますので、県内事業者が海外の需要をしっかりと取り込めるように、引き続き現地での販路拡大支援に力を入れていきたいと思っております。

また、北陸三県の取り組みについても、年明けにシンガポールの高級レストランや小売店において「北陸フェア」を開催する予定としておりますので、引き続き北陸三県が一体となって、北陸三県の産品のプロモーションに取り組んでいきたいと思っております。



多くの人で賑わうブース



能登のお酒の写真を撮る来場者

### ■三谷産業ベトナム創業 30 周年記念式典

三谷産業がベトナム創業 30 周年を迎えるということで、11 月 13 日にベトナム・ハノイ市で記念式典が行われました。当日は伊藤 駐ベトナム日本国特命全権大使や、武藤 ベトナム日本商工会議所 (JCCI) 会頭をはじめ、ベトナム政府関係の方々など、大変多くの方が参加しておりました。

三谷産業は、1994 年にベトナム進出して以降、この 30 年間でグループ会社 7 社 15 拠点を展開するまでに成長し、ベトナム人従業員数も約 2,400 人となったそうです。

伊藤大使によると、現在の日本とベトナムの貿易額は 1994 年の 20 倍にもなっており、この 30 年間で急成長を遂げています。逆に言えば、30 年前はまだ貿易額も少なく、現在のように投資環境の整っていない時代であり、そんな中でベトナムに目をつけ、まさに先駆者としてこれまで日越の貿易を引っ張ってこられた同社は、素晴らしい先見の明があったのだと感じました。しかし、三谷社長のご挨拶の中で、「正解を選んだのではなく、選んだものを正解に導くよう取り組んできた」とおっしゃっていたのが非常に印象的で、30 年の間、不断のご努力をし続けてきた成果が今に至ったのだと感じました。

海外の第一線で県内企業が活躍されていることは非常に誇らしいことであり、そのような企業が数多く生まれるように、今後も微力ながら支援に取り組んでいきたいと思えます。



式典の様子